

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
（分担）研究報告書

「患者体験調査」の地域性と全体評価の決定要因に関する研究  
研究分担者 樋田 勉 獨協大学 経済学部 教授

研究要旨

平成 30 年「患者体験調査」を用いて、標本設計を反映する区間推定を計算して主要な回答項目の地域差について分析した。また、全体評価の決定要因について、標本設計やデータの特徴に対応するモデル分析を実施した。

A. 研究目的

本研究の目的は、平成 30 年「患者体験調査」データを用いて、(1)主要な項目の回答状況の地域差と、(2)全体評価の決定要因を検討することである。

B. 研究方法

(1)では、総合評価や経済的負担などの主要な項目に、肯定的回答をした人の割合と信頼区間を推定し地域間比較を行った。(2)では、全体評価を被説明変数、他の主要な回答項目を説明変数としてマルチレベル分析を行った。また、全体評価の分位点回帰分析を行った。

（倫理面への配慮）

本研究は該当しない。

C. 研究結果

(1)信頼区間の比較からは、全体評価や経済的負担に関連するいくつかの項目については、回答内容に地域差が観察された。(2)では、地域間で全体評価にばらつきが見られた。また、全体評価のパーセント点の高低によって、モデルの当てはまり、全体評価と関連する説明変数やその係数が異なる傾向が観察された。

D. 考察

(1)全体評価は北海道・東北など東日本で低く、九州・沖縄など西日本でやや高い傾向だった。経済的負担などの項目では、地域の経済状況を反映する回答内容が得られており、これが地域差の要因の一つであると考えられる。(2)では、治療前・治療中・現在の状況が全体評価に関連するが、全体評価の高い回答者と低い回答者では、アンケートへの回答傾向が異なると考えられる。

E. 結論

地域差の分析からは、主要な回答項目のいくつかでは回答内容には地域差があることが示唆された。地域差の要因は十分には明らかにできていないため、今後、分析を行う。また、全体評価のモデル分析は、医療に対する患者の評価を高めたり、

医療の改善のために重要な示唆が含まれると考えられる。さらに分析を深めていくことが今後の課題である。

G. 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表  
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

- なし
1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし